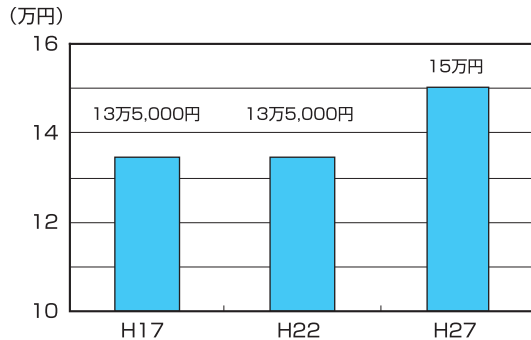


**Q2 公共事業を従来どおり実施できないでしょうか？
それは、辺地債・過疎債・合併特例債を活用すれば可能ではないでしょうか？**

**従来どおり市債を発行すれば
公債費(借金返済)の負担が重くなる**

生産労働人口(15~64才)1人当たりの公債費



※生産労働人口は、新市まちづくり計画から参照。
※公債費は、平成17年度以降も従来の市債借入を続けた場合による推計。

少子高齢化を迎える中、若い世代が後年度負担する割合が実質的に増えることを意味します。



辺地債、過疎債、合併特例債を1億円ずつ借りた場合、最終的に、いくら支払わなければならない？

【条件】 借入金 各1億円 金利2.0%
償還期間 10年(辺地債) 12年(過疎債) 15年(合併特例債)で試算

市債の種類	償還総額			交付税措置額	実質負担額
	元金	利子	計		
辺地債	1億円	1,238万円	1億1,238万円	8,990万円	2,248万円
過疎債	1億円	1,544万円	1億1,544万円	8,080万円	3,464万円
合併特例債	1億円	1,865万円	1億1,865万円	8,305万円	3,560万円

※金利は2.0%で試算

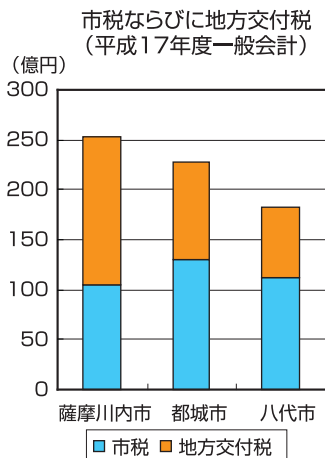
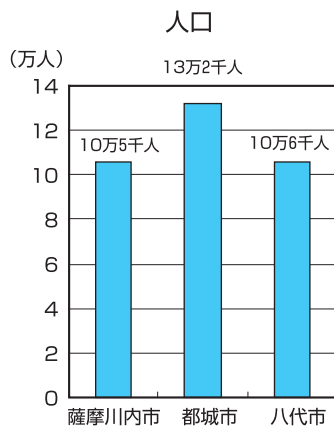
**将来に不安！
地方債による財源補てん**

辺地債・過疎債・合併特例債はいずれも借金です。
市債残高や公債費が多い現状では、活用する場合でも後年度の負担を考えながら、取捨選択する必要があります。

市が1億円借りた場合
市が負担する額
辺地債 → **2,248万円**
過疎債 → **3,464万円**
合併特例債 → **3,560万円**

こういった事業がいくつも重なると・・・

Q3 類似都市を比較した場合、薩摩川内市はどのような財政状況なのでしょうか？



**類似都市に比べて
市税は少なく、交付税は多い**

左の表からも分かるように、本市は他の市に比べて市税が少なく、地方交付税が多いことが分かります。財源を過剰に外的依存することは、国の施策やさまざまな要因に影響されやすく、安定的な財政運営が難しくなります。しかも、本市の交付税は15年後には、ほぼ類似都市並みに減ると予想されます。

**公債費、市債残高は
他の団体よりも多い**

公債費が大きくなると、福祉や教育、公共事業などの分野に予算を十分配分することが出来なくなります。市債残高は、市が借り入れている借金の残高で、市債残高が多いと後年度の財政負担が延々と続くことを意味します。

